

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 B棟)

事業所番号	0272600412		
法人名	倉石ハーネス(株)		
事業所名	グループホーム いこくま荘		
所在地	青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目17-2		
自己評価作成日	平成22年9月19日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事参加の継続で施設の存在を地域の皆さんにもっともっと身近に感じ理解していただきたいと思えます。特別な場所ではなく、いつでも気軽に立ち寄れる様なやわらかな空間を感じていただけるよう行事等でも機会あるごと伝えて行きたいと思えます。また家族会をはじめ、各委員会の活動も継続、そしていろいろな形で活動していければと思えます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0272600412&SCD=320>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やわらかな空間の中で一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心掛けます」という理念をかかげ、管理者、職員は日々の業務の中で意識することとし、業務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等積極的に参加し、交流を持ちまた、地域の方がこちらへ来て頂く機会を儲けている。その他、散歩、買い物等少しの時間でも出来るよう勤め、地域とのつながりを生活の中で自然に出来るようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の機会等に、日頃の理念に基づく対応を通して理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の推進会議を開催し、利用者やサービスの実際、取組状況等報告、話し合い、そこでご意見を頂きサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、主に管理者が連絡を取っている。推進会議にも参加いただき事業所全体で協力関係がとれており、日頃から良い関係を築く事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>環境や状況等全職員が把握に努め、身体拘束がなされないよう、工夫している。禁止の対象となる具体的な行為については、実際の現場で確認しながら正しく理解し、その状況を考慮し対応できるよう取り組んでいる。玄関には日中施錠せず、見守りやマンツーマンの対応にて取り組んでいる。</p>			
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては常日頃から話し、身体的虐待はもちろん、言葉での虐待、精神的虐待はあってはならないものという事を意識づけしている。また、その事が見過ごされないよう身体状況等職員間で確認、申し送り等徹底に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等学ぶ機会を設けるが、理解と活用には、まだ少し難しいと思われる。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その機会には、利用者、家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図ることに努めている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や要望等に関して、広報や新聞等で家族、または地域の方々に伝わるよう配布、掲示などの取り組みをしている。また、意見箱や苦情処理受付を説明書に明示している。日頃から意見、要望を出せるよう関係作りに努める他、その事に対して速やかに対応するよう努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度開催される職員全体会議の中で、各棟、全職員の意見を述べる場を設け、反映に務めている。また、日々の職員間からの意見をあげ全職員が周知、理解し、運営に反映できるよう取り組んでいる。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの勤務状況の把握に努め、説明や理解を求め対応している。各自が向上心を持って働けるよう出来る限り環境、条件の整備に努める。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量の把握に努め、研修の勧めや、日々の業務の中でレベルアップを目指し取り組むよう心がけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	資格取得のための勉強会の場を設けている。相互訪問の機会がなかなか少ない。そのなかでの少しの情報からサービスの質の向上させていくよう取り組みしている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉、行動等から思いを感じ取りまた家族からも話を聞き、本人の安心できる関係が少しでも早く築けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と同じよう、意見や思い、不安等を聞き、出来る限り良い方向へ向かうよう、そのことからご家族の協力を得られるよう関係作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としているものを明確にし、全職員が理解し、統一された支援が出来るよう、また職員間で情報交換、伝え合いながら、多方面からの支援が出来るような取り組みを心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念を持ちながら、一緒に行動することで、同じ目線となり一緒に暮らす者同士の関係を築くよう心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に本人、家族お互いの思いを伝える事に務め、絆を大切にしながら、本人を家族とともに支えて行ける関係作りに努める事を心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やここでの交流の機会等、出来る限り関係が持て、続いていく事が出来るよう取り組んでいる。交流があった際には、行事等以外でもいつでも来ていただけるよう声掛けし、次回への交流へつなぐ事が出来るよう努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いと、それぞれの関係を職員がしっかりと把握し、職員が仲に入り、よりよい関係が保てるよう配慮し支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域の中で会うこともあり、その際はこれまで築いてきた関係を壊すことなく、関わりをもてるよう努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望等、できるだけ把握に努め、また職員間の情報交換により思いを感じ取り、本人本位に検討することとしている。本人からの思い等の把握が困難な場合、担当職員はじめ、全職員で本人本位で検討し取り組む事としている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント等により、生活歴、暮らし方、生活環境の把握に努めている。また不明な点は職員間で情報交換しあい、少しでも多くのことを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの際、一人ひとりの状況に触れながら、現状の把握に全職員努めるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、課題とケアについて、意見を出し合える環境にあり、そのなかで出たことに関して家族、時に必要な関係者と話し合うがその事を介護計画の作成に入れるよう努力している。ケアカンファレンスの他に、状況の変化や意見、要望があったときには、その都度職員間で意見を出し合い対応する事に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践記録はされているが、気づき、工夫等不十分なこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源とするものが、どの位あるか職員も把握し切れていないところがある。どんなものがあるか、どんなことがあるか、情報収集し支援につなげる事が出来るよう努力していくこととする。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>開設当初から地域の診療所の協力をいただきながら、本人、家族の希望を大切に医療を受けられるよう支援している。地域の診療所の協力体制は整っている。必要に応じいつでも気軽に相談や受診できるよう対応している。月に一回往診体制も整っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は情報や気づきを看護職員にすみやかに報告、話し合い指示をもらう体制が整っている。また、准看護師より正看護師へ報告、指示をおおぐ体制となっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>必要に応じ、カンファレンスを開催したり、入退院の時には、相方より、情報提供書を作成し提示。カンファレンス内容も文章化している。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族への話は、医師よりしていただいたうえ、施設での生活のあり方、対応について時に家族を交え話し合いの場を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、救急の日に合わせ、救急対応の講習会を地域消防隊より開講していただき、全職員対象で受講している。また、緊急の対応方法を一覧表にし、慌てず対応するよう説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回春、秋と避難訓練を実施。より大変な夜間を想定、夜勤者二名での避難訓練を行なっている。また、連絡網の確認も併せて行っている。昨年、実際避難した経験を生かし、地域の消防や役場職員との協力体制を明確にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で、時として欠けてしまう場面がみられることがあるが、周りの職員の対応で気付き注意することもみられる。声掛けに関して、新人研修を機会に基本にかえり、全職員が日頃の声掛けについて意識して行うよう伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを述べやすいような声掛けでの対応や、行動観察にて思いを受け止めるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のリズムの中で一人ひとりのペースを大切にしていこうとの難しさはあるが、出来る限り希望に添って支援できるよう職員間協力し合い努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには、職員間声掛け合い、支援している。行事の際など声掛けし、その人らしさ無くすことなくおしゃれできるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けのできる方が、少数ではあるが、その方に出来る限りお願いし、必要とされている事を喜びとして感じてもらえるよう配慮している。普段、食事準備等に関われない方々はおやつ作りなどの機会に作る機会を設け、楽しんで頂くよう取り組んでいる。時に個人の好物を購入させていただき、食べる楽しみを感じてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状況を個々にチェックし確保できるようそれぞれに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に声掛けや介助により義歯及び口腔内のケアに取り組んでいる。その人その人に合った歯ブラシ、舌ブラシ、歯磨き粉等の工夫も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人のパットを使いたくないという気持ちを尊重し、時間でのトイレ声掛けにて対応している。パット類組み合わせにて使用の方については、不快感を極力感じないように、工夫し使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の方から、その方の排便の必要性を職員に伝えてもらい、便秘の予防と排便コントロールに全職員で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一日のうち入浴は午前又は午後に行なっている。時間の希望は難しいこともあるが、その日の入浴希望は対応できている。その方の状況や予定に合わせて、(明日、外出等)入浴を勧め、個々に応じた支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、また身体状況を観察、把握し無理なく安心して休めるよう配慮する			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤処方箋を参考にし、確認している。受診時医師より、必要性を説明していただき内容を受診記録へ記入、情報の共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力量を把握した上で作業等お願いし必要とされている事を張り合いとし過ごして頂くよう支援している。嗜好品や楽しみごとなど、担当が主となり、購入や気分転換の支援に努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やその日の状況により出来る限り希望に沿った外出が出来るよう取り組むが、なかなか十分に対応しきれている状況までは難しい。また、家族や地域の人達の協力体制もいつでも十分整っている環境にはなっていない。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある時は、家族からも了解をもらい持っていただき、外出時などの機会に使っていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況、希望に応じ電話でのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある居心地のよい空間作りに配慮している。利用者が手がけた作品等を飾ることにより次への意欲へとつなげていくよう配慮している。共用の空間は、利用者が落ち着き過ごせる空間に配慮し清潔、安全、快適を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内でも利用者の状況に合わせソファの位置等を移動したり、思い思いに過ごせるよう工夫し、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは、テレビや位牌等、基本的に使い慣れたもの、好みのものは自由としている。危険と考えられるものに関しては、本人、家族と話し合いにより対応している。本人の生活スタイルや好みで畳やベット等使用していただいている。私物の少ない利用者もいる。収納が限られているため年間を通しての衣類の保管が難しい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所や本人の物が分かるよう、名前や印をつけ混乱が少しでも少なくなるよう配慮している。畳の段差にはスムーズに足運びが出来るよう工夫し、手すりの設置もしている。		